

平成 15 年度理事会、評議員会ならびに総会における報告承認決定事項

第 46 回社団法人日本糖尿病学会年次学術集会は、小林正会長主宰のもとに平成 15 年 5 月 22, 23, 24 日の 3 日間、富山市国際会議場、オーバードホール、その他において開催された。これに先立つ理事会、評議員会は 5 月 21 日富山市国際会議場において、また総会は 22 日オーバードホールにて開催された。

1. 第 46 回社団法人日本糖尿病学会年次学術集会の経過報告 (小林会長)

第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会は平成 15 年 5 月 22 日 (木)、23 日 (金)、24 日 (土) の 3 日間、富山市のオーバードホールなど 12 施設にて開催された。

今学会のテーマとして、“新しい糖尿病学への飛躍—再生医療から予防・地域医療まで—” をとりあげ、膵島・ β 細胞の再生医療、移植に関する最近の進歩を主題としたシンポジウム、2 型糖尿病の一次予防の重要性については、Prof. Jaakko Tuomilehto を迎えて内外での成績を踏まえた、これからの予防のあり方の指針を示すシンポジウムが開催され、意義ある深い討論がなされた。糖尿病地域医療のあり方、糖尿病の治療の基礎となるデータマネジメント、その他インスリン作用、インスリン分泌、脂肪細胞の分子生物学、合併症発症のメカニズムなど基礎研究から疫学、臨床研究にいたるシンポジウムを合計 27、ワークショップを 1 開催し、活発な討論がなされた。

特別講演には、Prof. Amira Klip がインスリン作用の中で重要な糖輸送のメカニズムを細胞内の空間と時間とのかかわりについて video を用いて明解に示され、また井村裕夫先生 (内閣府総合科学技術会議) には、これからの日本の糖尿病研究の目指すべき方向性についての指針を示して頂いた。

一般演題は合計 1,329 題の登録があり、口演発表を 1,148 題と今回は多く採択し、出来るだけ会場での発表と討論をする機会を持ってもらった。また、好評である教育講演も 32 題と充実したものとした。残念ながら、SARS の影響で Diabetes in Asia は当局の指導に従い、今学会では中止となった。

参加者は、全部で 6,135 人となり、どの会場も活発な情報交換が見られ、また多くの参加者が良い環境のもと、意義深い 3 日間の学会期間を過ごされ、市民公開講座も 1,500 人と多くの参加を得、参加者から好評を得た。

2. 平成 14 年度事業報告および庶務報告 (岩本理事)

●事業報告

1) 第 45 回年次学術集会

- 会 長 河盛隆造
(順天堂大学内科代謝内分泌学)
- 会 期 平成 14 年 5 月 17・18・19 日
- 会 場 東京 (東京国際フォーラム)
- 参加者 7,307 名
- ・会長講演 “糖のながれ” のシステム生物学
- ・特別講演 1. Diabetes: past, present and future
2. ポストシーケンズ時代の疾患遺伝子解析研究
- ・シンポジウム 1. Insulin Action on the Liver
他 13 題
- ・ワークショップ 1. 膵臓移植—日本人膵臓移植の現状と将来への展望
他 8 題
- ・Special Workshop 1. Diabetes in Asia 2002
他 2 題
- ・公開講座 1. 糖尿病の新しい展望
他 13 題
- ・学会賞受賞講演
ハーゲドーン賞 インスリンの細胞内情報伝達機構とその異常
リリー賞 膵 β 細胞グルコース応答性インスリン分泌における NADH シヤトル機構の役割の解明
- ・口演発表 331 題
- ・ポスター 946 題

2) 出版事業

- ①会誌「糖尿病」第 45 巻 4 号、サブルメント 1 (抄録集) ～第 46 巻 3 号を発行
- ②糖尿病患者向け指導書
 - i 糖尿病食事療法のための食品交換表 第 6 版
600,000 部発行
 - ii ポケット版食品交換表

- 増刷なし, 出版契約解除
- iii 糖尿病治療の手びき 25,000 部発行
 - iv 糖尿病性腎症の食品交換表 14,000 部発行
 - v 糖尿病食事療法のための食品交換表 CD-ROM 付 増刷なし
 - vi 糖尿病性腎症の食品交換表 CD-ROM 付 増刷なし
- ③医師, コ・メディカル向け指導書
- i こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き 増刷なし
 - ii 糖尿病食事療法指導のてびき 4,000 部発行
 - iii 糖尿病療養指導の手引き 1,500 部発行
 - iv 糖尿病治療ガイド 2002, 2003 124,000 部発行
 - v 糖尿病学用語集 1,500 部発行
 - vi 糖尿病遺伝子診断ガイド 増刷なし
 - vii 糖尿病専門医研修ガイドブック 1,500 部発行
 - viii 小児・思春期糖尿病管理の手びき 増刷なし

3) 第 37 回「糖尿病学の進歩」

世話人 横野 浩一 (神戸大学老年内科学)

会 期 平成 15 年 2 月 21・22 日(金・土)

会 場 神戸国際会議場, 他

参加者 3,469 名

①第 1 日目

A 会場 (医師・コメディカル向け)

○レクチャー「これからの糖尿病診療」

1. 文明と糖尿病治療—過去・現在・未来 他 5 題

○シンポジウム「特別な管理を要する糖尿病」

1. 肥満糖尿病の問題点 他 3 題

○Off Line Discussion 脳出血後遺症を有する
インスリン自己注射指導困難例 他 3 題

B 会場 (コメディカル向け)

1. 「糖尿病療養指導士の役割」

○レクチャー①これからの療養指導のあり方と
役割 他 5 題

2. 「療養指導に必要な糖尿病の知識」

○レクチャー①薬物療法 経口血糖降下薬 他
4 題

C 会場 (医師向け)

1. 「糖尿病の新しい概念および診断の進歩」

①「1 型糖尿病の発症機構」

○レクチャー i. 遺伝因子 他 2 題

②「2 型糖尿病の発症機構」

○レクチャー i. 遺伝因子 他 2 題

○シンポジウム「他科から糖尿病専門医に望む
もの」

2. 「糖尿病合併症の発症機構と検査の進歩」

○レクチャー i. 網膜症 他 4 題

D 会場 (医師向け)

○シンポジウム「日本人における糖尿病の
EBM (1)」 他 1 題

②2 日目

A 会場 (医師・コメディカル向け)

1. 「糖尿病合併症の管理」

○レクチャー①網膜症 他 3 題

2. 「糖尿病診療と IT」

○レクチャー①IT 利用と糖尿病診療 他 1 題

○シンポジウム「生活習慣病としての糖尿病の
予防と治療 (一次予防と二次予防)」

3. Off Line Discussion II

①「生活習慣の指導およびベザフィブラート投与
により肝機能の改善を認めた非アルコール性脂肪
肝炎合併 1 型糖尿病」 他 3 題

B 会場 (コメディカル向け)

1. 「療養指導の実践」

○レクチャー①栄養指導 他 5 題

○シンポジウム「ライフステージ別の糖尿病の
療養指導」

2. 「患者教育」

○レクチャー①集団・個別教育 他 1 題

3. 「クリティカルパス作成の実践とその応用」

○レクチャー①クリティカルパスの実践 他 1
題

C 会場 (医師向け)

1. 「糖尿病治療の進歩」

○レクチャー①経口血糖降下薬 他 3 題

2. 「肥満と糖尿病」

○レクチャー①内臓脂肪型肥満 他 1 題

D 会場 (医師向け)

○シンポジウム 「糖尿病治療の将来展望」

4) 地方活動

北海道, 東北, 甲信越, 中部, 近畿, 中国・四国,
九州の 7 支部でそれぞれ学術集会が開催された。

5) 分科会活動

第 17 回日本糖尿病合併症学会が平成 14 年 10 月
11・12 日 (金・土), 齋藤康会長のもと, 大手町サン
ケイプラザにて開催された。参加者は 800 名だった。

6) 糖尿病週間

平成 14 年 11 月 4 日(月)~10 日(日), 第 38 回全国
糖尿病週間の行事が一斉に行われた。テーマは「合併
症を防ごう—血糖, 血圧, 体重—」。

7) 国際糖尿病連合会議

第 15 回 IDF-WPR 会議(2002 年 5 月 4～7 日), IDF-WPR Council Meeting (2002 年 5 月 3～4 日) が北京で開催され, 赤沼理事長, 堀田・清野・小林理事が出席した。

8) 普及・啓発・後援事業

①第 38 回全国糖尿病週間の共催

期 間 平成 14 年 11 月 4 日～10 日

テーマ 「合併症を防ごう—血糖, 血圧, 体重—」

②日本糖尿病協会への協力

「さかえ」および「つぼみ」発行の企画等

③2002 年度全腎協全国大会 in 秋田の後援

平成 14 年 5 月 26 日

④第 21 回臨床画像検査法講習会の後援

平成 14 年 6 月 20～22 日

⑤糖尿病と生活習慣病と ED の後援

平成 14 年 6 月 23 日・7 月 14 日

⑥第 5 回糖尿病地域医療研究会総会の後援

平成 14 年 7 月 6 日

⑦第 2 回糖尿病教育資源共有機構年次学術集会の後援

平成 14 年 8 月 2・3 日

⑧糖尿病 Up to Date 賢島セミナーの後援

平成 14 年 8 月 24・25 日

⑨第 11 回日本糖尿病財団糖尿病予防キャンペーンの後援

平成 14 年 9 月 8 日・10 月 13 日

⑩糖尿病シンポジウムの後援

平成 14 年 10 月 12 日・11 月 10 日

⑪平成 14 年度「お米・健康サミット」の後援

平成 14 年 11 月 7 日

⑫世界糖尿病デー 2002 年記念フォーラムの後援

平成 14 年 11 月 14 日

⑬第 2 回先進インスリン療法研究会の後援

平成 14 年 11 月 16 日

⑭第 4 回アジア分子糖尿病学シンポジウムの後援

平成 14 年 12 月 13・14 日

⑮第 17 回日本糖尿病動物研究会年次学術集会の後援

平成 15 年 1 月 17・18 日

●庶務報告

1) 総会

平成 14 年 5 月 17 日, 東京国際フォーラムにおいて第 45 回通常総会を開催した。

平成 13 年度事業報告, 庶務報告, 収支決算報告が承認され, また平成 15 年度事業計画および予算, 新役員が承認がされた。第 46 回会長に岩本安彦学術評議員が選出・承認された。

2) 評議員会および学術評議員会

平成 14 年 5 月 16 日にそれぞれ開催された。

3) 理事会

定例理事会は平成 14 年 5 月 16 日, 12 月 8 日, 臨時理事会は 14 年 5 月 18 日, 7 月 7 日, 平成 15 年 2 月 20 日の合計 5 回開催された。なお, 平成 14 年 5 月 18 日の臨時理事会において, 春日雅人理事長を決定した。

●会員状況 (平成 15 年 3 月 31 日現在)

1) 役員等

①役員

理 事 17 名(13 年度末 17 名, 5 月承認)

監 事 2 名(13 年度末 2 名, 5 月承認)

②学術評議員 529 名

(13 年度末 530 名, 物故者 1 名)

③評議員 88 名(13 年度末 88 名)

2) 会員等

①名誉会員 18 名 (13 年度末 17 名, 1 名追加)

②正会員

14 年 3 月末日会員数 12,927 名

14 年度新入会 1,158 名

名誉会員へ -1 名

退会 -459 名 退会内訳

会費未納 197 名

希望退会 231 名

物故者 31 名

正会員 現在数 13,625 名 (698 名増)

3) 賛助会員

14 年 3 月末日会員数 38 名

14 年度新入会 1 名

14 年度退会 -2 名

賛助会員 現在数 37 名 (1 名減)

4) 物故会員

功労学術評議員 川手亮三 高科成良 玉澤佳巳

山崎晴一朗 吉川政己

学術評議員 阿部隆三

正会員 赤嶺浩三 市場謙二 井宮淳太郎

及川 圭 大越次男 大澤 清

折祖昭彦 久野和代 金 玟全

小林健一 米田嘉重郎 佐保雅紀

鈴木文雄 高瀬朝雄 竹本吉夫

田部田功 新谷博一 能海 勲

牧野康彦 水嶋 昇 村橋善高

本橋 論 山口達郎 米澤美恵子

若林孝雄

(敬称略, 連絡のあった方のみ)

3. 委員会報告

1)「糖尿病」編集委員会 委員長 佐藤祐造
委員会の開催 6 回 (平成 14 年 4 月 14 日, 5 月 17 日, 7 月 1 日, 10 月 6 日, 12 月 1 日, 平成 15 年 2 月 22 日)

①出版状況: 第 45 巻 4 号から第 46 巻 3 号までの 12 誌とサプPLEMENTとして「第 45 回年次学術集会抄録号」を発行した。

詳細は下表の通りである。

②論文受付状況: 平成 14 年 4 月 1 日より平成 15 年 3 月 31 日までの論文投稿数 114 編, この期間に掲載可否の決定された 110 編のうち可となったもの 85 編, 採択率 77% であった。

③論文投稿数, ことに原著論文の数が減少しており, 会員からの積極的な投稿を希望する。

④オンラインジャーナル化に伴い「糖尿病」投稿規定にインフォームドコンセント取得に関する事項を追加した。

⑤「糖尿病学の進歩」のプロシーディング (診断と治療社刊) 投稿原稿も査読を行うこととなった。については, 開催地区の糖尿病編集委員が中心になって査読を行うのが原則であるが, 論文数も多いことから, 地

区の評議員等の協力に加え, 専門分野の他の地区の糖尿病編集委員の先生方にもご協力願うこともあるので, よろしく願いたい。

⑥論文投稿時には, 先行研究, 既報告症例等に関する文献検索を十分に行っていただきたい。

2)「食品交換表」編集委員会 委員長 伊藤千賀子
委員会の開催: 5 回 (平成 14 年 4 月 6 日, 5 月 17 日, 9 月 21 日, 平成 15 年 1 月 13 日, 2 月 21 日)

栄養士による作業部会: 6 回 (平成 14 年 6 月 12 日, 7 月 21 日, 8 月 18 日, 10 月 20 日, 平成 15 年 1 月 13 日, 3 月 23 日) 開催し, 平成 14 年 10 月 5 日に写真撮影に立ち会った。

①委員会活動:

i 出版事業: 糖尿病食事療法のための食品交換表第 6 版を平成 14 年 5 月 9 日出版。

糖尿病性腎症の食品交換表改訂作業のために, 委員会を 4 回, 作業部会を 5 回開催し, モデル献立の撮影作業を行い, 平成 15 年 2 月 11 日に出版。

ii 糖尿病食事療法のための食品交換表 第 6 版の CD-ROM 版作成のために食品のデータ

	総頁数	原著	症例	短報	報告	速報	地方会	ミニレビュー	編集者への手紙	委員会報告	特集	その他
Vol. 45 No. 4	92	3 (1)	5				1					
Supplement 2	414	第 45 回年次学術集会抄録号										
No. 5	80	2 (1)	4				1			1		
No. 6	66	2	5				1					
No. 7	120	2	5 (1)				1		1			1
No. 8	60	3 (1)	4				1					
No. 9	64	3 (1)	6									2
No. 10	76	3	5		1 (1)						4	
No. 11	54	3 (1)	4							1		
No. 12	88	3 (1)	4	1							5	
Vol. 45 No. 1	100	2 (1)	7				1					1
No. 2	110	2 (1)	7				1					1
No. 3	84	3 (1)	5 (1)				1					
合計	1,408	31 (9)	61 (2)	1	1	0	8	0	1	2	9	5

注: () はコメディカルコーナー

ベース作成作業

- iii 糖尿病食事療法のための食品交換表 第6版の英訳版「Food Exchange Lists」の作成について：この英訳版については希望が多く、また、本年は18回のIDFがパリで開催されることもあって、作成に取りかかっている。
- iv 引用許可願の審査状況（平成15年2月末現在）

電子メディア関連の引用許可願については医療法・栄養士法に抵触する部分もあることから、山田糖尿病学会顧問弁護士と慎重に協議しながら検討を進めているが、審査状況は以下の通りである。

- a. 「食品交換表」：申請件数59件（許可51件、審査中2件、取り下げ3件、不許可3件）
- b. 「糖尿病性腎症の食品交換表」：
申請件数4件（許可4件）
- c. 糖尿病食事療法指導のてびき：
申請件数0件（許可0件）

②出版状況（平成15年2月末）：

食品交換表第6版—450,000部（発行60万部）
糖尿病性腎症の食品交換表（初版合計）—75,399部
腎症のCD-ROM版—1,000部、食品交換表のCD-ROM版—9,140部

3)「治療の手びき」編集委員会 委員長 貴田嘉一

①平成14年度より着手した「糖尿病治療の手びき」の大改訂の作業が順調に進んでいる。

現在、予定原稿のほとんど全てが集まり編集委員会による査読が終了し執筆グループごとの校正作業を行っている。6～7月に全体編集会議を開催し最終稿を作成し、全理事および各種委員会委員長による校閲および編集委員会による最終校正を経て10～11月に出版の予定である。

②「糖尿病治療の手びき」に対応して医療チームが療養指導に用いる「糖尿病療養指導の手引き」を「糖尿病治療の手びき」の大改訂にあわせて改訂する作業を10～11月より開始する予定である。

4) 小児糖尿病委員会 委員長 貴田嘉一

①アジア太平洋地域における小児糖尿病管理の実態を標準化したHbA_{1c}測定法を用いて調査するIDF WPR DiabCare 2001が終了した。本研究には12カ国の約2000名の小児糖尿病患者が参加したがそのうち約500名が日本の患者であった。アジア太平洋地域における小児糖尿病管理には地域差があるがまだ満足すべき状態にはないことが明らかにされた。今後、この

結果にもとづき日本も含めてIDF WPRとしてのAction Planを策定する予定である。

②アジア太平洋地域では小児思春期2型糖尿病が増加しているので、この実態調査をIDF WPRでDiabCare 2001に準じてDiabCare 2003として実施することになった。当委員会では前回と同様に本プロジェクトに参加する。日本での調査は本年7月より開始する予定である。

③開発途上国の小児1型糖尿病患者にインスリンを供給するIDFの「里親プラン」を日本でも開始するため、日本糖尿病協会やライオンズクラブ等と協力して準備を始める。

5) 協会委員会 委員長 豊田隆謙
平成15年度「糖尿病週間」のテーマを決めた。
「糖尿病，治療して防ごう脳卒中，心臓病」

6) 選挙管理委員会 委員長 南條輝志男
委員会開催 2回（平成14年7月26日 平成15年1月24日）

第1回目の委員会では、14年度会長選挙の手順と日程について協議し、①支部長への会長候補者推薦依頼の方法、②推薦された方の意思確認の方法、③理事長への報告日、④候補者の所信表明の提出期限を決定した。

第2回目の委員会では、①所信の書式、②所信の会員への周知方法、③学術評議員会での選挙・開票作業について協議した。

なお、学術評議員会での開票は、候補者のいない支部の委員があたることとし、担当委員が開票時に不在の場合その代役を同支部選出の学術評議員の中から選挙管理委員会委員長が指名することとする。

7) 内科系学会社会保険連合

委員 河盛隆造・松岡健平

平成14年度としては、第93回内保連例会が平成15年1月21日に一回だけ開催された。五島雄一郎代表より、平成16年4月に保険診療報酬の改定が予定されていることから、平成15年9月までに種々の小委員会より要望をまとめるよう、指示があった。糖尿病学会より今後は検査小委員会、外来診療技術小委員会、内分泌関連小委員会、などに積極的に参画し要望していくことが必要となる。頻回の小委員会に出席し実務を遂行していただくため、土井邦紘、平尾紘一、渥美義仁、横田邦信の4名の学術評議員に小委員会委員をお願いした。

関連した活動として、「糖尿病の外来診療においてヘモグロビンA_{1c}を6.4%以下の良好な管理を維持す

ることを日本糖尿病学会は「治療ガイド」で奨励している。特に新しく薬剤を開始した際、投与量を変更した際、月 1 回のヘモグロビン A_{1c} と来院時血糖値のみでは血糖コントロール状況の把握は困難である。血糖応答反応が急速に変動していると考えられる際には、ヘモグロビン A_{1c} に加えフルクトミン、グリコアルブミン、又は 1,5-AG のいずれか 1 項目を月 1 回、別に算定できるように改訂されるようお願いする」由の要望書を日本医師会疑義解釈委員会、および厚生労働大臣に日本糖尿病学会理事長名で届けた。

8) 国際交流に関する報告 理事 堀田 饒
第 5 回国際糖尿病連合西太平洋地区学会 (5th IDF-WPR Congress) が 2002 年 5 月 4~7 日 4 日間に亘って北京に於いて、Rong-Li Qian 会長 (北京大学教授) の下に盛大に開催され、わが国からも多数の先生が出席された。同時期に合わせて IDF-WPR Council meeting が北京で 5 月 3・4 日の 2 日間に亘り、開催され、IDF-WPR の財務状況、IDF-WPR 全体の活動状況並びに第 19 回国際糖尿病学会は 2006 年に韓国のソウルで開催されることで説明がなされた。次回の IDF-WPR Council meeting は、名古屋で開催されることになった。

第 12 回日韓糖尿病シンポジウムは、2003 年 5 月 9・10 日の 2 日間に亘り、名古屋で堀田 饒会長 (中部労災病院院長) の下、開催される予定である。IDF-WPR の機関誌「Diabetes Research and Clinical Practice」の発行は順調で、impact factor は 2001 年の最新のもので、1.639 と過去最高となった。

・国際交流委員会に関する報告 理事 堀田 饒
この度、国際交流委員会が新たに設置された。設置の主旨は、日本糖尿病学会の国際活動を研究以外の分野でも活発なものとし、わが国の世界への貢献をより強く訴え、合わせてその遂行の為に人材育成を努める。委員会の構成は、理事 3 名と学術評議員 5 名で発足し、今後の活動について議論を行った。

9) 学術調査研究・教育に関する報告 理事 小林 正
学術調査研究委員会を 14 年度に発足した。委員の構成は下記の通りである。
小林 正 牧野英一 南條輝志男 野田光彦
西村理明 池上博司 谷澤幸生

第 1 回委員会を平成 14 年 9 月 14 日に開催し、①現在の調査研究委員会の見直し、②これからの学術調査研究について、③学術調査研究に係る費用について協議した。その結果、各調査研究の期間は大体 3 年を目

途にある程度の結論を出し、報告書の提出を義務付ける事とした。新しい調査研究は①課題、②目的・方法、③費用・期間、④委員の構成等を指定の申請書に明記の上、学術調査研究委員会に提出すること、学術調査研究委員会では申請のあった各テーマについて審査の上、理事会に上申する事、等を取り決めた。

①糖尿病関連検査の標準化に関する委員会

委員長 富永真琴

委員会開催 平成 14 年 5 月 18 日、10 月 20 日
テストミール開発ワーキンググループ

平成 14 年 5 月 18 日、平成 15 年 1 月 12 日

①HbA_{1c} の標準化

HbA_{1c} 測定標準物質は平成 13 年 3 月に Lot 2 を認証したが、これにトレーサブルなキャリブレーションが各メーカーで製作された。現状の日常測定では Lot 1 トレーサブルおよび Lot 2 トレーサブルキャリブレーションが混在している。この状況でも日本における標準化が維持されているかどうかを確認する目的で平成 14 年 11 月に全国サーベイを実施した。その結果、4 試料の CV は 2.7~4.0% であり標準化が維持されていることがわかった。国際臨床化学連合 (IFCC) では IFCC 法によるアンカー測定ならびにそのナンバリングを実行に移そうとしている。円滑な IFCC 法への移行のための活動を今後の課題としたい。

②血糖自己測定 (SMBG) の標準化

SMBG 測定機器は比較対照法を静脈法に統一することが ISO/TC 212 の新たな提案でも採用された。ただし、実際の測定にあたっては静脈血への変換を行うか行わないかにより機種間差が生じうる。平成 15 年 12 月に患者ボランティアを用いて実態調査を行い、この結果、2 極化していることがわかった。

③インスリン測定の標準化

国際標準化の動きと連動したい。

④テストミールの開発

食後血糖値については、食事の内容、採血時間、基準値など未解決であるので、テストミール開発ワーキンググループを設置し、約 500 kcal のテストミールを試作した。本年度はワーキンググループ内で基礎検討を行う。

⑤グリコアルブミンの標準化

グリコアルブミンは新たに酵素法による日常測定キットが発売された。HbA_{1c} 標準化の手法で標準化を目指す。

②遺伝子異常による糖尿病に関する調査研究委員会
委員長 南條輝志男

平成8年度より、我が国における遺伝子異常による糖尿病の現況の把握と病態の解明、実際の遺伝子検索のあり方などについて種々検討を行っている。

その一つとして「学会員の先生方が日常診療の場で遺伝子異常による糖尿病を疑った場合にその検索が行えるような共同研究の環境を整備することが、新たな症例の蓄積を経て病態の解明に繋がる」との考えから、遺伝子解析の支援活動を行っている。このような学会が遺伝子解析を支援する試みは前例がなく、遺伝子解析に付随する倫理的な問題をクリアするために多くの作業を要したが、本学会倫理委員会での審査・承認をいただき、現在、MODYの原因遺伝子の1つであるHNF-1 α 遺伝子につき検索支援を開始している。平成14年度は、3家系の解析が終了、そのうちの1家系において糖尿病の原因と考えられる新たな遺伝子異常を同定している。現在、さらに8家系の解析を予定している。また、平成13年4月に文光堂より発刊した「糖尿病遺伝子診断ガイド」は最新の知見を追加した改訂版を本年5月に発刊の予定である。

③IDDM 複数発症家系・IDDM, NIDDM 共存家系
調査研究委員会 委員長 金澤康德

本研究会は現在最終の纏めを行っており、委員会に参加している委員から得られた情報を集積している。今のところ（4月14日現在）約半数の委員よりデータが寄せられている。現状では約200例の1型糖尿病の発端者よりのデータが集積されている。全委員からのデータの集積にはあと一ヶ月かかるものと思われるがこれの報告を作成して委員会活動を終了する。

④糖尿病の一次予防に関する調査研究委員会
委員長 小林 正

糖尿病の一次予防には、糖尿病発症のリスクファクターを有するIGT等の対象者のフォローアップおよびその教育等の方策を立てて、健診以後の望ましいシステムを構築することが必要である。本委員会は、このような点から焦点を絞り、その指針となるようなガイドライン等の作成等を目的とするものである。

日本での一次予防の各地における介入研究も2~3その成果が発表され、また最近の欧米での介入試験の結果が報告されている。

このような、実際の内外での介入試験などを参考にし、老健法などのスクリーニング後などのIGTを中心とする患者に対してできるEBMにのっとった指導のあり方の委員会報告や簡単な指導マニュアルなどのパンフレットなどを作成することが当面の本委員会の

目的である。

⑤糖尿病の死因に関する調査委員会
委員長 堀田 饒
委 員：岩本安彦 大野良之 春日雅人 吉川隆一
豊田隆謙 中村二郎

第三次（1991-2000年）糖尿病患者の死因に関する調査では、全国282施設から18,639症例分のアンケート調査用紙が回収され、初期のデータ入力が終了した。当初の予定では、既にデータの解析が終了しているはずであったが、欠損あるいは整合性にかけるデータが多く認められたことから、それらのデータの確認作業を現在行なっているところである。これらの作業が終了次第、本格的なデータの解析を行ない、論文作成へと進める予定である。

⑥劇症及び緩徐進行1型糖尿病調査研究委員会
委員長 牧野英一

・劇症型調査委員会

本年度はとくにウイルス抗体の検出とHLAの解析に重点をおいた。その結果、発症前後でウイルス抗体価に有意の変動の見られた例はほとんどないことが判明した。HLAについては、劇症型においてDR4は高頻度にみられるが、DR9は対照群と差がないこと、DR2は劇症型では低頻度であるものの自己免疫性より多いこと、また、劇症型のうち約20%と自己免疫性のうち約13%が、それぞれDR4のhomozygousであることが判明した。今後、劇症型と比較するために、自己免疫性1型糖尿病におけるHLA-DRB1, DQB1のgenotypeについてのデータが必要であり、各委員の施設の自己免疫性のデータを収集する予定である。また、妊娠関連劇症型についても解析を進めている。一方、遺伝子検査を行うために倫理委員会への申請を予定しており、SPIDDM委員会と共同で行うことになった。

・緩徐進行1型糖尿病調査委員会

目的

- i. 2型糖尿病患者におけるGAD抗体陽性の緩徐進行1型糖尿病の頻度及び臨床像を明らかにすること。
- ii. 緩徐進行1型糖尿病の診断のガイドラインを作成すること。
- iii. 緩徐進行1型糖尿病の遺伝的要因であるHLA-DR, -DQ genotypeを明らかにすること。

活動状況

2回の調査研究委員会を開催し、

- i. 調査委員会施設における緩徐進行1型糖尿病症例のリクルートおよび検討項目、解析内容につ

いて検討のプロトコールを作成した。

- ii. 検体の輸送方法などについても話し合いを進めた。
- iii. 全国における緩徐進行 1 型糖尿病の実態調査を合わせて行うことを決定し、委員会施設での成績をみてから開始することを決定した。

⑦食事療法に関する検討委員会 委員長 津田謹輔
委員会開催日 平成 14 年 9 月 1 日・平成 15 年 4 月 13 日

本委員会は、現行の食事療法が科学的な根拠に基づいているかどうかを検証し、さらには ADA が提唱しているような食事療法のガイドラインを日本でも提言することを目的として立ち上げられた。本年度食事療法については、日本では「科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン」が、また米国では Evidence-based nutrition principles and recommendations for the treatment and prevention of diabetes and related complications が発表された。本委員会がめざすところを先に越されたところもあるが、ADA の勧告のなかには蔗糖の取り扱いなど日本でも議論しておく必要のある項目がある。

2 年目の本委員会では、いろいろの課題について担当を決め具体的成果を上げられるよう活動を始めた。いくつかの課題をあげると

- i. 食事指導方法：食品交換表を基礎にしたもので、フードピラミッドに相当するような視覚に訴える教材の開発。
- ii. 第六次改訂日本人の栄養所要量に
 - (a) 摂取エネルギー量の設定 (b) タンパク質摂取量 (c) 脂肪の量と質 (d) ビタミン摂取量などの項目について記載されている。これらは健常人を対象にしたもので、これらの基準値を糖尿病患者にそのままあてはめることが可能か。このような問題について検討を始めている。

⑧糖尿病性腎症データベースの構築調査研究委員会
委員長 吉川隆一

糖尿病性腎症により透析療法に導入される患者は年々増加の一途をたどっており、その医療費も飛躍的に増大している。この現状を打破する目的で、糖尿病性腎症の大規模なデータベースを構築し、将来前向き調査を実施することを計画した。これにより、諸外国にも類を見ない糖尿病性腎症の経時的追跡を全国規模で展開するとともに治療評価も可能になると考えられる。

本年度 1 次調査を実施する予定であったが、平成 14 年 6 月文部科学省および厚生労働省より「疫学研究に

関する倫理指針」が発表され、「糖尿病性腎症データベースの構築」に関しても本倫理指針に則った対応が必要と考えられた。そこでプロトコールの再検討を行った上で、日本糖尿病学会および日本腎臓学会の倫理委員会に提出し、現在ご審査いただいている。尚、本調査研究事業は厚生労働省効果的医療技術の確立推進臨床研究事業および「糖尿病性腎症に関する合同委員会」との共同事業である。

両学会倫理委員会の承認を受け次第、1 次調査を開始いたしますので、日本糖尿病学会学術評議員の先生方には、是非本調査にご協力賜りますようお願い申し上げます。上げる次第でございます。

⑨アジア人糖尿病調査研究委員会

委員長 南條輝志男

本委員会は平成 13 年度に「アジア人共通の糖尿病臨床像の把握およびその原因の解明」を目的に発足し、アジア各国（韓国、中国、台湾、香港、モンゴル、フィリピン、タイ、インドネシア、シンガポール、マレーシア）と共同で 1 型および 2 型糖尿病の疫学調査および栄養調査を行うことを決定し、各調査の進め方について協議を行ってきた。平成 14 年 5 月の IDF-WPR において各国代表の承認を得て、共通の調査票を作成し、1 型および 2 型糖尿病の疫学調査を開始した。結果の一部は本年度の日本糖尿病学会年次学術集会シンポジウム「Diabetes in Asia 2003」において発表される予定である。また、栄養調査に関しても各国での食習慣、食物の違いを考慮し、アジア各国の栄養士の協力を得て、調査票を作成し、調査を行う予定である。また、アジア各国の糖尿病学者との国際交流をはかるため、第 45 回日本糖尿病学会年次学術集会において Special Workshop「Diabetes in Asia 2002」を企画し、アジア各国より 6 名の糖尿病学者を招き盛会であった。本年度も小林会長の許可を得て、第 46 回日本糖尿病学会年次学術集会においてシンポジウム「Diabetes in Asia 2003」をアジア各国の糖尿病学者約 20 名を招待し、行う予定である。

⑩糖尿病性神経障害の実態調査と国際比較調査研究委員会
委員長 堀田 饒

現在、わが国に於ける実態を 11,299 例について予備調査を終了し、得られた成績を参考にし、国際比較のすすめ方を方法などに就いて検討中である。

10) 平成 15 年度坂口賞および学会賞に関する報告

①坂口賞は、赤沼安夫、中山秀隆の 2 会員に授与する。

②学会賞審査委員会（委員長 金澤康徳）を平成 15 年 1 月 19 日に開催し、各受賞者を選出した。

i ハーゲドーン賞

南條輝志男 (和歌山県立医科大学)

「遺伝子異常による糖尿病」

ii リリー賞

・下村伊一郎 (大阪大学大学院生命機能研究科)

「インスリン抵抗性症候群における脂肪組織の意義に関する研究」

・岩崎直子 (東京女子医科大学第三内科)

「MODY 遺伝子の変異および臨床像の解析と2型糖尿病の全ゲノム解析による日本人糖尿病遺伝素因の総合解析」

11) 学会認定事業に関する報告

①中央認定委員会 委員長 清野 裕

委員会は小委員会も含め7回開催された。平成14年度の専門医試験は216名が受験し、169名が合格した。研修指導医の申請は77名中73名が認定された。専門医研修認定教育施設は申請29施設中28施設が認定された。更新は専門医326名・指導医113名・認定教育施設41施設であった。

昨年学会認定制協議会が発足し、内科関連学会の専門医は、同会からの認定を行なうこととなっていたが、いまだ条件が整わない学会があるため、従来通り、各々の学会で認定を行なうこととなった。

なお、認定制協議会は本年、有限責任中間法人日本専門医認定機構となり、糖尿病学会も本機構に加盟した。

糖尿病学会は内科関連の学会として専門医制度に関する合意書を内科学会ととり交わした。

それに伴ない、専門医規則の改訂を行なうこととなった。

規則の改訂は別紙の通りである。(本号 p.574)

②試験委員会 委員長 南條輝志男

平成14年5月19日、第16回試験委員会を開催し、第13回専門医試験の試験方法と出題問題の作成分担、口頭試験担当者、試験監督担当者を決めた。7月28日に委員長、数名の委員により試験問題のチェックを行い、9月8日に委員全員で試験問題の選定を行った。第13回専門医試験は、平成14年10月27日、都市センターにおいて実施した。受験者は216名で、当日合否判定(169名合格)案を決定、11月17日中央認定委員会に報告、承認された。

なお、第14回(平成15年度)の試験は平成15年10月26日(日)、第15回(平成16年度)の試験は平成16年10月24日(日)都市センターで実施することとした。

12) 分科会に関する報告 日本糖尿病合併症学会

日本糖尿病学会の分科会である日本糖尿病合併症学会は、平成14年10月11・12日の2日間に亘って斎藤 康会長(千葉大学大学院医学研究院細胞治療学教授)の下、第17回日本糖尿病合併症学会として東京のサンケイプラザにて開催された。

学会は、特別講演、会長講演各1題、教育講演2題、シンポジウム3題、Meet-The-Authorityセッション1題、Meet-The-Specialist 3題そして一般演題は例年通り全てワーク・ショップ形式で行われた。また、市民公開講座も最終日にもたれた。本学会が設けた学会賞の各賞の受賞者は以下の各先生で、Outstanding Foreign Investigator AwardはMarja-Riitta Taskinen教授(ヘルシンキ大学)、Distinguished Investigator Award: 赤沼安夫、七里元亮、Expert Investigator Award: 松沢佑次(大阪大学)、Young Investigator Award: 五十嵐雅彦(山形大学医学部臨床検査医学)、鈴木大輔(東海大学医学部腎・内分泌代謝内科)、和田 淳(岡山大学大学院医歯学総合研究科免疫内分泌代謝内科)。平成15年に予定されている第18回日本糖尿病合併症学会は、清野 裕会長(京都大学大学院医学研究科臨床代謝栄養学教授)の下、10月10・11日の2日間に亘って、京都国際会館を会場にして開催されることが決定している。学会の機関誌「糖尿病合併症」は抄録号も含め、3回発行された。

13) その他

①糖尿病治療ガイド編集委員会 委員長 金澤康徳

糖尿病治療ガイド2002・2003は昨年の糖尿病学会のときに発刊されました。治療ガイド2000以来2年経過しているため、多くの修正箇所があり殆ど全てにわたって検討された。改訂作業は従来の方法を踏襲し、委員会を開いて文章を逐語的に検討した。新しい第一版には検討不十分のところがあつた、委員会が直ちに招集され再度問題点を検討し第一版第三刷を最終稿として増刷を行い4月初め迄で12万冊が利用者の手に渡っている。次の改訂は新しい委員会で行っていただくために、委員会の若返りを図っていただいた。少々厚くなりすぎたため、初期の目的であるスリムな「ガイド」を目指し糖尿病治療ガイド2004・2005はスタイルも大きく変わる全面的な改訂になると思われる。

②インターネット委員会 委員長 豊田隆謙

i 平成14年6月22日

山崎勝也 野間善彦 柳沢克之 伊坂正明

前田英一 鍵本伸二 田嶋尚子 鈴木 進

豊田隆謙 山田弁護士

○診療に関するニュースを掲載

- 保険診療、行政上の記事を山田弁護士に依頼
- 糖尿病学会総会の教育講演掲載を会長に依頼する
- 地方会の記事は支部代表委員が責任をもって対応する

ii 平成 15 年 2 月 21 日

柳沢克之 伊坂正明 田嶋尚子 鈴木 進
豊田隆謙

- インターネット委員会規則案を審議し、了承した。次回理事会に諮る。
- オンラインジャーナル化を過去 3 年分を掲載することを了承した。
伊坂正明先生および鍵本伸二先生、古賀龍司先生を中心に作業をすすめる。
- ホームページ運用について、業者に委託することも検討する。

③糖尿病性腎症合同委員会 世話人 岩本安彦
委員会は、平成 14 年 5 月 18 日 (土)、平成 14 年 12 月 8 日 (日) の 2 回開催された。

本年度の第 1 回委員会 (通算第 15 回) では、委員会報告「尿中Ⅳ型コラーゲン濃度の正常値についての検討-糖尿病性腎症の診断指針の作成を目指して-」の最終案の検討を行うとともに、糖尿病性腎症予後調査の具体的な進め方に関する検討、腎症診療ガイドラインの作成に向けての小委員会発足について、などの討議を行った。

第 2 回委員会 (通算第 16 回) では、伊藤喜久氏 (旭川医大臨床検査医学) による「尿中アルブミンの標準化について」と題する講演ののち、標準化物質に関する問題点などの意見交換を行った。さらに糖尿病性腎症のデータベース構築について、1 次調査の実施計画書、2 次調査 (患者登録) の倫理面の問題などについて検討を行った。腎症診療ガイドラインの作成については、糖尿病学会編「糖尿病治療ガイド」に沿った形での作業を進めることを確認した。

④移植関連学会合同委員会臓器移植中央調整委員会
委員長 金澤康德

平成 14 年度には中央調整委員会を 2 回、臓移植実務者委員会を 2 回行った。前者では 3 年を経過した段階での移植施設の見直しを含め検討を行った。またホームページを作成しつつある。また後者では、本年度に移植のあった 3 例の症例について検討され各々の問題点について議論された。今まで 10 例の移植があり臓の生着率 90%、同時に移植された腎臓の生着率は 100% であった。中央調整委員会事務局ではレシピエントの適応審査をしている地域適応審査委員会を束

ね、またレシピエントの移植ネットワークへの登録事務を仲介しているが、現在 150 名の申請がありネットワークへの登録は 90 名となっている。なお地域適応審査委員会の活動に対して糖尿病学会、腎臓学会からの助成を受けている。現状で最大の問題は臓器を提供するドナーの数が極めて少ないことである。これに対しては一層の普及啓発が必要である。

⑤用語集編集委員会 委員長 石田 均

平成 13 年 3 月に糖尿病学用語集の初版が刊行されたのを受けて、アンケート形式により用語集へのご感想とご意見を、主に学術評議員の方々よりお寄せ頂き、雑誌「糖尿病」に掲載した。

これらを基にして、1) 日本糖尿病学会の会員の方々から広く意見を集め、平成 17 年度を目標に刊行予定の第二版の編集作業を開始する。2) 糖尿病学に携わる方々の共通用語を収載することを主な目的とし、積極的に略語も含めた新たな用語を取り入れることとする。3) 用語数としては初版の約 7000 語を基準として選定を進める。なかでも重要な用語については 500 語程度を選び、簡潔な解説 (50 字程度) をつけることとする。4) 糖尿病学関連の用語を、日本内科学会用語集、日本医学会用語集へも反映させることが必要である。また他の学会などとの間で未だ意見の一致をみていない用語も少なからず存在することから、これらの間での用語の整合を図る必要がある。5) 日本糖尿病学会の各委員会で用いられている用語についても一致をみていない事例があり、この点についても整合を図っていく。さらに、雑誌「糖尿病」に用いるキーワードとの整合性についても検討を加える。6) 平成 13 年度から日本糖尿病療養指導士制度が発足し、同指導士を目指す方々が有効に利用することが出来る用語集の整備が必要である。以上の事項を中心にして、今後の委員会で審議を重ねる予定である。

前委員長として、糖尿病学用語集初版の刊行に御尽力された山下亀次郎先生の後任として、私が委員長を、そして花房俊昭先生が副委員長をつとめさせて頂くことになりました。新たな 7 名の委員の方々とともに、充実した内容の用語集第二版を刊行すべく努力を積み重ねる所存です。会員の皆様方からの忌憚ないご意見をお待ちしております。

⑥専門医取得のための研修ガイドブック作成委員会
委員長 岡 芳知

初版が平成 13 年 4 月に 8 名の編集委員と 92 名もの執筆者の尽力により刊行され、好評のうちに第 3 刷となっている。ただ、発刊後約 2 年を経たことを踏まえて編集委員会で討議し、この間に登場した新規薬剤や

無自覚低血糖症と運転免許などについての解説を追加する改訂をすることとなった。改訂作業を進めており、平成 15 年 5 月に改訂版を発刊の予定である。(平成 15 年 3 月 25 日記)

⑦倫理委員会 委員長 岩本安彦

倫理委員会に対する審査申請書の書式を定め、学会のホームページを通じてダウンロード可能な形にした。

本年度には、下記 3 件の審査申請書ならびに関連書類の提出があり、持ち回り審議を行い、いずれも承認した。

i 「遺伝子異常による糖尿病」調査研究委員会の研究実施期間の延長

申請者：南條輝志男 遺伝子異常による糖尿病調査研究委員会委員長

回 答：承認（平成 15 年 2 月 1 日）

ii 「1 型糖尿病関連遺伝子群の多施設共同研究」

申請者：牧野英一 劇症型糖尿病調査委員会委員長

回 答：承認（平成 15 年 3 月 31 日）

iii 「糖尿病性腎症患者データベースの作成」

申請者：吉川隆一 糖尿病性腎症データベース構築調査委員会委員長

回 答：承認（平成 15 年 3 月 31 日）

⑧「学術集会」「糖尿病学の進歩」あり方委員会

委員長 豊田隆謙

平成 14 年度は開催しなかった。平成 15 年 4 月 25 日開催の予定。

⑨科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン策定委員会 委員長 春日雅人

昨年度、雑誌「糖尿病」に増刊号（45 巻：Supplement 1, 2002）として発刊された「科学的根拠（evidence）に基づく糖尿病診療ガイドライン」の公表に伴い、『科学的根拠に基づく糖尿病診療ガイドライン』に関するシンポジウムを平成 14 年 7 月 14 日に東京女子医大弥生記念講堂にて、多数の参加者を得て開催した。

その議論も踏まえ、改訂版を作成するべく、以後 3 回にわたって委員会を行い、項目・内容の検討と拡充を行った。現在、改訂版の発刊に向け、査読委員による査読と編集作業を遂行している。

4. 日本医学会報告 春日評議員

第 26 回日本医学会総会は杉岡洋一会頭の下、平成 15 年 4 月 4～6 日、「人間科学 日本から世界へ」21 世

紀を拓く医学と医療 信頼と豊かさを求めて」をメインテーマとして福岡で開催された。第 123 回日本医学会シンポジウム「ウイルス肝炎」15 年 6 月 12 日、第 124 回は「肥満と科学」15 年 8 月 29～31 日、開催される。

5. 「糖尿病学の進歩」開催について

1) 第 38 回糖尿病学の進歩

開催日：平成 16 年 2 月 6 日・7 日（金・土）

会 場：福岡市 福岡国際会議場

世話人：名和田 新（九州大学病態制御内科学）

2) 第 39 回糖尿病学の進歩

開催日：平成 17 年 2 月 18 日・19 日（金・土）

会 場：仙台市国際会議場

世話人：富永真琴（山形大学臨床検査医学）

6. 平成 14 年度収支決算に関する件（吉川理事）

総会で審議の上、14 年度収支計算書が承認可決された。（本号 p 575～585）。

7. 平成 15 年度補正予算に関する件（吉川理事）

総会で審議の上、15 年度補正予算が承認可決された。（本号 p 586～588）。

8. 平成 16 年度事業計画および収支予算について（岩本理事・荒木理事）

総会において審議の上、平成 16 年度事業計画および収支予算が承認可決された（本号 p 589～593）。

9. 名誉会員の推薦に関する件

理事会が推薦した磯貝庄、大森安恵、長瀧重信、野中共平各氏が名誉会員に承認された。

10. 次会長（第 48 回学術集会）の選任に関する件

春日雅人学術評議員が学術評議員会で選出され、総会において承認された。

11. 第 47 回年次学術集会に関する件

平成 16 年 5 月 13・14・15 日の 3 日間、東京国際フォーラム（東京都）において開催の予定である。

12. 学術評議員、評議員の承認に関する件

各支部から選出された 580 名の学術評議員と理事会が推薦した稲垣暢也、岡本宏、八木橋操六、泉哲郎、北野滋彦、小島至、永松信哉、矢田俊彦、矢部千尋、板倉光夫、蛭名洋介の 11 会員が総会において承認された。なお、評議員の選出は理事会に一任することが承認された。（本号 p 594～596）。

13. 編集委員、中央認定委員会・試験委員会委員の承認に関する件

任期満了となった「治療の手引き」編集委員会、「食品交換表」編集委員会、「糖尿病」編集委員会、中央認定委員会、試験委員会の委員の後任として支部から選出された委員が承認された。

14. 平成 15 年度選挙管理委員の承認について下記の様に承認された。

支 部	氏 名
北海道	柳沢 克之
東 北	山田 憲一
関東甲信越	河津 捷二
中 部	榊原 文彦
近 畿	横野 浩一
中国四国	伊藤 千賀子
九 州	荒木 栄一
理 事	堀田 饒

15. 「糖尿病学の進歩」プログラム委員について細則第 42 条により、下記の様に決定された。

第 39 回「糖尿病学の進歩」世話人 名和田新
 第 40 回「糖尿病学の進歩」世話人 富永真琴
 第 47 回会長 岩本安彦
 第 48 回会長 春日雅人
 学術担当理事 小林 正

16. 学会後援について

申し込みのあった 7 件全部を後援することとした。

- ①第 22 回腎不全対策を語る集い
平成 15 年 1 月 26 日
- ②糖尿病教育資源共有機構第 3 回学術講演会
平成 15 年 8 月 2・3 日
- ③糖尿病 Up・Date 賢島セミナー
平成 15 年 7 月 26・27 日
- ④第 1 回 1 型糖尿病研究会
平成 15 年 10 月 4 日

支 部	治療の手引き	食品交換表	「糖尿病」
北海道	鬼原 彰	森川秋月※	中山秀隆 鬼原 彰※
東 北	梅村周香 間中英夫※	伊藤正毅	稲垣暢也 渡辺 毅※
関甲信	渥美義仁 河津捷二※	小沼富男 石田 均※ 井藤英喜※※	小田原雅人 内湯安子 及川真一 川上正舒※ 貴田岡正史※ 山内俊一※
中 部	安田圭吾※	井口昭久※	中村二郎 佐藤祐造※
近 畿	北川良裕 西沢良記※	岡本元純 野村 誠※	横野浩一 安田 斎 西 理宏※ 山田祐一郎※
中四国	貴田嘉一※	伊藤千賀子※	大澤春彦 四方賢一※
九 州	仲村吉弘	原口義邦	荒木栄一 吉成元孝※

※2003 年度選出委員 ※※特別委嘱

支 部	中央認定委員会	試験委員会
北海道	吉岡成人 井出 肇	柳沢克之
東北	岡 芳知 富永真琴	鈴木 進
関甲信	佐々木望 柴 輝男 林 洋一 平尾紘一 橋本尚武	相澤 徹 能登谷洋子 佐倉 宏
中部	小泉順二 中村二郎	大角誠治
近畿	鹿住 敏 倉八博之 柏木厚典	佐々木秀行 葛谷英嗣
中四国	池田 匡 福田哲也	石田俊彦
九州	梅田文夫 桶田俊光	大槻 眞

⑤第3回先進インスリン療法研究会

平成15年10月25日

⑥第7回日中友好糖尿病シンポジウム※

平成15年11月22・23日

⑦第15回分子糖尿病シンポジウム

平成15年12月6日

※開催延期，未定

17. 専門医制度規則第7条，第8条，第19条の変更について

専門医取得申請時に，研修開始証明書と，教育施設での研修証明書の提出を必要とするために，規則を改定することとなった。（本号 p 574）

18. 国際交流委員会の英文表記について

Committee on Foreign Affairs と表記することとした。

19. 学会設立 50 周年記念事業について

準備委員会を早急に立ち上げることとした。

20. 新規学術調査研究課題について

「妊娠糖尿病の定義，スクリーニング，診断基準の再評価に関する調査研究」を新規に始めることとした。

（文責 庶務担当常務理事 岩本安彦）

専門医制度規則第 7, 8, 19 条の変更に關する件

現 行	改 定 案
第 3 章 専門医申請の資格 第 7 条 3. 認定内科医研修の課程を終了後、あるいは小児科認定医研修の課程を 3 年以上終了後、この規則により認定された認定教育施設において 3 年以上の期間にわたって糖尿病臨床研修を行っていること。 第 7 条 5. 糖尿病臨床に關する、筆頭者としての学会発表または論文が 2 編以上あること、なお、学会雑誌に關しては、施行細則に定める。	同文 (追加) 糖尿病の研修開始時に研修同意書を提出し、その後研修カリキュラムの内容に沿った糖尿病の研修を学会認定教育施設により行なったことを証明しうること 同文 (追加) なお同一学会或いは合同学会において複数回発表を行なっても 1 回のみの計算とする
第 4 章 専門医の認定 第 8 条 専門医の認定を希望するものは次項に定める申請書類に審査料を添えて受験することができる 1. 専門医認定申請書 2. 履歴書 3. 医師免許書 (写し) 4. 認定教育施設研修終了証明書 5. 症例記録 6. 業績目録 7. 研修指導医の推薦書 8. 日本内科学会または日本小児科学会専門医認定証 (写し)	1, 2, 3 は同文 4. 認定教育施設研修開始同意書 (追加) 5. 認定教育施設研修カリキュラム (追加) 現行 4 は 6 とし、以下順次繰り下げる
第 8 章 研修指導医の認定 第 19 条 中央認定委員会は毎年 1 回申請書類によって審査し、認定する。	同文 (追加) 但し、認定教育施設に指導医が不在となり、後任の指導医として申請された場合に限り、随時書類審査を行ない、認定する

解 説

※研修指導医について (追加)

③特例研修指導医とは、新規の認定教育施設の必要性から、また、既に認定されている教育施設から研修指導医が転出したために生じる後任の必要性から、研修指導医の資格条件を全て満たしていなくても、中央認定委員会において特に認められた研修指導医をいう。

同時に認定教育施設として認定された所属施設 (後任の特例指導医の方は現在所属の認定教育施設) を離れた場合、または正規の研修指導医が認定された場合は、研修指導医の資格を失う。

また、特例研修指導医の認定期間は 2 年間で、特例指導医を再度申請することはできない。認定期間 (2 年間) 内に規定を満たし、正規の指導医を申請しなければならない。

会 報

I. 財産目録

平成 15 年 3 月 31 日 現在

(単位：円)

資 産 の 部	I. 基本財産			
	1) 定期預金	住友信託銀行 東京営業部	50,000,000	
	基本財産合計			50,000,000
	II. 運用財産			
	1. 流動資産			
	1) 現金	手許有高	337,735	
	2) 普通預金			
	三井住友銀行 白山支店	41,107,299		
	みずほ銀行 本郷支店	20,394,408		
	UFJ 銀行 本郷支店	48,574,950		
	東京三菱銀行 本郷支店	20,099,719		
	住友信託銀行 東京営業部	2,224,714		
	本郷郵便局	5,000,313	137,401,403	
	3) 振替貯金			
	東京地方貯金局		86,923,347	
	4) 定期預金			
	住友信託銀行 東京営業部		1,610,000	
	5) 定額預金			
	本郷郵便局		10,010,000	
	6) 金銭信託			
	住友信託銀行 東京営業部	138,785	236,421,270	
	7) 未収入金			
	広告料 2 社	4,031,140		
	印税 3 社	7,360,470		
	会誌 28 件	119,200		
	超過掲載料 2 件	80,000		
	会費 一般 490 名	5,550,000		
	第 37 回糖尿病学の進歩より繰入金	1,048,067	18,188,877	
	8) 立替金			
	別刷製作費用 2 名分		29,120	
	9) 前払費用			
	平成 15 年 5 月総会費用	1,465,000		
	IDF 平成 15 年分会費	572,137	2,037,137	256,676,404
	2. 固定資産			
	1) 建物附属設備	間仕切	50,000	
	2) 器具備品	冷蔵庫 他 3 点	561,395	
	3) 電話加入権	(03)3815-4364	115,100	
	4) 敷金	本郷スカイビル 403 号・303 号・302 号	4,941,200	
	5) 退職給与引当預金	住友信託銀行 東京営業部	17,576,246	
	6) 坂口賞積立預金	UFJ 銀行 本郷支店	7,347,015	
	7) 学会賞積立預金	UFJ 銀行 本郷支店	1,925,484	
	8) 名簿積立預金	住友信託銀行 東京営業部	16,080,000	
	9) 学術調査研究積立預金	住友信託銀行 東京営業部	62,280,000	
	〃	UFJ 銀行 本郷支店	20,000,000	
	10) 国際情報交流基金預金	本郷郵便局	20,257,237	
	11) O A 機器積立預金	住友信託銀行 東京営業部	20,120,000	
	12) 事務所移転・営繕積立預金	住友信託銀行 東京営業部	30,180,000	
	13) 50 周年事業積立預金	住友信託銀行 東京営業部	40,130,000	
	〃	UFJ 銀行 本郷支店	20,000,000	
	14) 国際会議誘致準備積立預金	住友信託銀行 東京営業部	30,100,000	285,995,982
	運用財産合計			548,340,081
	資産合計			598,340,081

(単位:円)

負 債 の 部	I. 流動負債			
	1) 前受金			
	会費 10,227 名	102,950,000		
	会誌 99 件	2,948,000		
	寄付金 1 件	1,000,000		
	広告料収入 2 件	2,100,000		
	専門医認定審査料 5 名	50,000		
	専門医更新審査料 8 名	160,000	109,208,000	
	2) 預り金			
	社員負担 健保・厚生年金他		212,285	
	3) 未払金			
	46-3 製作費		3,416,423	
	4) 未払法人税等			
	14 年度法人税・住民税・事業税・消費税		8,730,400	121,567,108
	II. 固定負債			
	退職給与引当金		17,576,246	
	坂口賞引当金		7,347,015	
	学会賞引当金		1,925,484	
	名簿引当金		16,080,000	
	学術調査研究引当金		82,280,000	
	国際情報交流基金引当金		20,257,237	
	OA 機器引当金		20,120,000	
	事務所移転引当金		30,180,000	
	50 周年事業引当金		60,130,000	
	国際会議誘致準備引当金		30,100,000	285,995,982
	負債合計			407,563,090
	正味財産			190,776,991

Ⅱ．貸借対照表
平成 15 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

資 産 の 部			負 債 の 部		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
I. 流動資産			I. 流動負債		
現金預金	236,421,270		前受金	109,208,000	
未収入金	18,188,877		預り金	212,285	
立替金	29,120		未払金	3,416,423	
前払費用	<u>2,037,137</u>		未払法人税等	<u>8,730,400</u>	
流動資産合計	256,676,404		流動負債合計	121,567,108	
II. 固定資産			II. 固定負債		
1. 基本財産			退職給与引当金	17,576,246	
定期預金	<u>50,000,000</u>		坂口賞引当金	7,347,015	
基本財産合計	50,000,000		学会賞引当金	1,925,484	
2. その他の固定資産			名簿引当金	16,080,000	
建物附属設備	50,000		学術調査研究引当金	82,280,000	
器具備品	561,395		国際情報交流基金引当金	20,257,237	
電話加入権	115,100		OA 機器引当金	20,120,000	
敷金	4,941,200		事務所移転引当金	30,180,000	
退職給与引当預金	17,576,246		50 周年事業引当金	60,130,000	
坂口賞積立預金	7,347,015		国際会議誘致準備引当金	<u>30,100,000</u>	
学会賞積立預金	1,925,484		固定負債合計	285,995,982	
名簿積立預金	16,080,000				
学術調査研究積立預金	82,280,000				
国際情報交流基金預金	20,257,237				
OA 機器積立預金	20,120,000				
事務所移転・営繕積立預金	30,180,000				
50 周年事業積立預金	60,130,000				
国際会議誘致準備積立預金	<u>30,100,000</u>				
その他の固定資産合計	291,663,677				
固定資産合計	341,663,677				
			負 債 の 部 合 計	407,563,090	
			正 味 財 産 の 部		
			I. 正味財産		
			(うち基本金)	(50,000,000)	
			(うち当期正味財産増加額)	(230,585)	
			正 味 財 産 の 部 合 計	190,776,991	
			負債及び正味財産の部合計	598,340,081	
資 産 の 部 合 計	598,340,081				

〔注〕 1. 基本財産たる資産 定期預金 50,000,000 円

2. 固定資産償却累計額 建物附属設備 950,000 円
器 具 備 品 2,626,447 円

Ⅲ. 収支計算書（総合）
自平成 14 年 4 月 1 日
至平成 15 年 3 月 31 日

1. 収支計算の部

（単位：円）

科 目 （ 収 入 の 部 ）		合 計			一 般 会 計			特 別 会 計		
		予算額	決算額	差 額	予算額	決算額	差 額	予算額	決算額	差 額
基本財産運用収入		175,000	39,999	135,001	175,000	39,999	135,001			
会費収入	正会員会費収入	124,000,000	136,670,000	△12,670,000	124,000,000	136,670,000	△12,670,000			
	賛助会員会費収入	7,400,000	8,200,000	△800,000	7,400,000	8,200,000	△800,000			
助成金収入		200,000	200,000	0	200,000	200,000	0			
事業収入	出版事業収入	66,500,000	97,695,330	△31,195,330	66,500,000	97,695,330	△31,195,330			
「進歩」開催収入		30,000,000	54,360,800	△24,360,800	30,000,000	54,360,800	△24,360,800			
「年次学術集会」開催収入		109,000,000	172,682,600	△63,682,600	109,000,000	172,682,600	△63,682,600			
寄附金収入		2,000,000	1,500,000	500,000	2,000,000	1,500,000	500,000			
雑収入	受取利息	1,500,000	599,517	900,483	1,500,000	599,517	900,483			
	会誌投稿料	1,500,000	1,840,000	△340,000	1,500,000	1,840,000	△340,000			
	雑収入	100,000	2,149,254	△2,049,254	100,000	2,149,254	△2,049,254			
特定預金取崩収入		12,000,000	12,000,000	0	12,000,000	12,000,000	0			
認定事業収入	専門医認定審査料	1,000,000	2,290,000	△1,290,000				1,000,000	2,290,000	△1,290,000
	認定料	2,000,000	3,400,000	△1,400,000				2,000,000	3,400,000	△1,400,000
	専門医更新審査料	7,000,000	7,080,000	△80,000				7,000,000	7,080,000	△80,000
	受験料	2,000,000	4,400,000	△2,400,000				2,000,000	4,400,000	△2,400,000
当 期 収 入 合 計 (A)		366,375,000	505,107,500	△138,732,500	354,375,000	487,937,500	△133,562,500	12,000,000	17,170,000	△5,170,000
前 期 繰 越 収 支 差 額		134,348,166	134,348,166	0	112,067,511	112,067,511	0	22,280,655	22,280,655	0
収 入 合 計 (B)		500,723,166	639,455,666	△138,732,500	466,442,511	600,005,011	△133,562,500	34,280,655	39,450,655	△5,170,000
（ 支 出 の 部 ）										
管理費		67,900,000	60,829,161	7,070,839	67,900,000	60,829,161	7,070,839			
事業費	調査研究費	10,000,000	11,825,439	△1,825,439	10,000,000	11,825,439	△1,825,439			
	インターネット委員会	17,940,000	6,506,509	11,433,491	17,940,000	6,506,509	11,433,491			
	その他委員会	3,200,000	7,223,527	△4,023,527	3,200,000	7,223,527	△4,023,527			
	学術・地方集会開催事業	13,600,000	16,848,500	△3,248,500	13,600,000	16,848,500	△3,248,500			
	出版事業	101,800,000	104,064,043	△2,264,043	101,800,000	104,064,043	△2,264,043			
	国際交流事業	2,450,000	1,535,938	914,062	2,450,000	1,535,938	914,062			
	認定事業費	15,000,000	14,812,820	187,180				15,000,000	14,812,820	187,180
	「進歩」開催費用	30,000,000	54,360,800	△24,360,800	30,000,000	54,360,800	△24,360,800			
	「年次学術集会」開催費用	109,000,000	172,682,600	△63,682,600	109,000,000	172,682,600	△63,682,600			
	学術研究助成	2,000,000	1,500,000	500,000	2,000,000	1,500,000	500,000			
	坂口賞	100,000	102,900	△2,900	100,000	102,900	△2,900			
	名簿積立金	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0			
特定預金支出		0	50,000,000	△50,000,000	0	50,000,000	△50,000,000			
繰入金支出		0	54,133	△54,133	0	54,133	△54,133			
予備費		2,385,000	0	2,385,000	2,385,000	0	2,385,000			
支 出 合 計 額 (C)		377,375,000	504,346,370	△126,971,370	362,375,000	489,533,550	△127,158,550	15,000,000	14,812,820	187,180
当 期 収 支 差 額 (A)－(C)		△11,000,000	761,130	△11,761,130	△8,000,000	△1,596,050	△6,403,950	△3,000,000	2,357,180	△5,357,180
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B)－(C)		123,348,166	135,109,296	△11,761,130	104,067,511	110,471,461	△6,403,950	19,280,655	24,637,835	△5,357,180

Ⅳ．正味財産増減計算書（総合）

自平成 14 年 4 月 1 日

至平成 15 年 3 月 31 日

（単位：円）

1) 増加の部		合 計		一 般 会 計		特 別 会 計	
科 目		決算額		決算額		決算額	
資産増加額	当期収支差額	761,130		△1,596,050		2,357,180	
	退職給与引当預金増加額	1,747,752		1,747,752			
	坂口賞積立預金増加額	3,572		3,572			
	学会賞積立預金増加額	2,809		2,809			
	名簿積立預金増加額	2,000,000		2,000,000			
	学術調査研究積立預金増加額	20,000,000		20,000,000			
	国際情報交流基金預金増加額	10,000,000		10,000,000			
	50 周年事業積立預金増加	20,000,000		20,000,000			
負債減少額	学術調査研究引当金取崩額	2,000,000		2,000,000			
	国際情報交流基金引当金取崩額	10,000,000		10,000,000			
	増 加 額 合 計	66,515,263		64,158,083		2,357,180	
2) 減 少 の 部							
科 目							
資産減少額	学術調査研究積立預金取崩額	2,000,000		2,000,000			
	国際情報交流基金積立預金取崩額	10,000,000		10,000,000			
負債増加額	固定資産減価償却額	110,545		110,545			
	長期前払費用償却額	420,000		420,000			
	退職給与引当預金繰入額	1,747,752		1,747,752			
	坂口賞引当金繰入額	3,572		3,572			
	学会賞引当金繰入額	2,809		2,809			
	名簿引当金繰入額	2,000,000		2,000,000			
	学術調査研究引当金繰入額	20,000,000		20,000,000			
	国際情報交流基金引当金繰入額	10,000,000		10,000,000			
	50 周年事業引当金繰入額	20,000,000		20,000,000			
	減 少 額 合 計	66,284,678		66,284,678		0	
当 期 正 味 財 産 増 加 額		230,585		△2,126,595		2,357,180	
前 期 繰 越 正 味 財 産 額		190,546,406		168,265,751		22,280,655	
期 末 正 味 財 産 合 計 額		190,776,991		166,139,156		24,637,835	

V. 収 支 計 算 書 (一般会計)

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 15 年 3 月 31 日

1. 収支計算の部

(単位:円)

科 目			予算額	決算額	差異	摘要
(収 入 の 部)						
基本財産運用収入			(175,000)	(39,999)	(135,001)	
	基 本 財 産 運 用 収 入		175,000	39,999	135,001	
会 費 収 入			(131,400,000)	(144,870,000)	(△13,470,000)	
	正 会 員 会 費 収 入		124,000,000	136,670,000	△12,670,000	
	賛 助 会 員 会 費 収 入		7,400,000	8,200,000	△800,000	
助 成 金 収 入			(200,000)	(200,000)	(0)	
	助 成 金 収 入		200,000	200,000	0	
事 業 収 入			(66,500,000)	(97,695,330)	(△31,195,330)	
	出 版 事 業 収 入		66,500,000	97,695,330	△31,195,330	
「進歩」開催収入			(30,000,000)	(54,360,800)	(△24,360,800)	
	「 進 歩 」 開 催 収 入		30,000,000	54,360,800	△24,360,800	
「年次学術集会」開催収入			(109,000,000)	(172,682,600)	(△63,682,600)	
	「年次学術集会」開催収入		109,000,000	172,682,600	△63,682,600	
寄 附 金 収 入			(2,000,000)	(1,500,000)	(500,000)	
	寄 附 金 収 入		2,000,000	1,500,000	500,000	
雑 収 入			(3,100,000)	(4,588,771)	(△1,488,771)	
	受 取 利 息		1,500,000	599,517	900,483	
	会 誌 投 稿 料		1,500,000	1,840,000	△340,000	
	雑 収 入		100,000	2,149,254	△2,049,254	
特定預金取崩収入			(12,000,000)	(12,000,000)	(0)	
	学術調査研究積立預金取崩収入		2,000,000	2,000,000	0	
	国際情報交流積立預金取崩収入		10,000,000	10,000,000	0	
当 期 収 入 合 計 (A)			354,375,000	487,937,500	△133,562,500	
前 期 繰 越 収 支 差 額			112,067,511	112,067,511	0	
収 入 合 計 (B)			466,442,511	600,005,011	△133,562,500	
(支 出 の 部)						
管 理 費			[67,900,000]	[60,829,161]	[7,070,839]	
	給 料 手 当		31,000,000	21,725,028	9,274,972	
	福 利 厚 生 費		3,000,000	3,054,339	△54,339	
	会 議 費		1,500,000	1,569,196	△69,196	
	旅 費 交 通 費		3,000,000	4,026,040	△1,026,040	
	通 信 運 搬 費		4,000,000	5,714,159	△1,714,159	
	事 務 費		2,000,000	2,544,642	△544,642	
	印 刷 製 本 費		2,500,000	2,407,891	92,109	
	支 払 手 数 料		5,500,000	5,092,755	407,245	
	光 熱 水 料 費		1,200,000	594,492	605,508	
	賃 借 料		12,000,000	10,296,006	1,703,994	
	退職給与引当金繰入額		1,700,000	1,700,000	0	
	雑 費		500,000	2,104,613	△1,604,613	
事 業 費			[292,090,000]	[378,650,256]	[△86,560,256]	
	調 査 研 究 費		(10,000,000)	(11,825,439)	(△1,825,439)	
	旅 費 交 通 費		3,200,000	3,667,340	△467,340	
	通 信 運 搬 費		900,000	1,150,626	△250,626	

会 報

科 目			予算額	決算額	差異	摘要
事業費	インターネット委員会	事務費	450,000	23,625	426,375	
		調査費	4,000,000	6,226,148	△2,226,148	
		印刷製本費	450,000	16,172	433,828	
		会議費	1,000,000	741,528	258,472	
			(17,940,000)	(6,506,509)	(11,433,491)	
		通信費	4,440,000	502,204	3,937,796	
		印刷製本費	1,000,000	0	1,000,000	
		備品費	1,500,000	0	1,500,000	
		会議費	500,000	58,845	441,155	
		IT関係整備費	10,000,000	5,477,640	4,522,360	
	その他の委員会	旅費交通費	500,000	467,820	32,180	
			(3,200,000)	(7,223,527)	(△4,023,527)	
		会議費	500,000	2,819,858	△2,319,858	
		旅費交通費	1,000,000	3,536,120	△2,536,120	
		通信費	900,000	125,196	774,804	
		雑費	800,000	742,353	57,647	
			(13,600,000)	(16,848,500)	(△3,248,500)	
		糖尿病学の進歩	2,000,000	2,000,000	0	
		年次学術集会	4,000,000	4,000,000	0	
		支部補助費	7,600,000	10,848,500	△3,248,500	
	学術・地方集会開催事業		(101,800,000)	(104,064,043)	(△2,264,043)	
		旅費交通費	6,000,000	6,584,640	△584,640	
		通信運搬費	21,000,000	27,326,540	△6,326,540	
		会議費	2,500,000	2,459,166	40,834	
		事務費	300,000	424,919	△124,919	
		印刷製本費	72,000,000	57,805,578	14,194,422	
		租税公課	0	9,463,200	△9,463,200	
			(2,450,000)	(1,535,938)	(914,062)	
		旅費交通費	2,000,000	976,925	1,023,075	
		国際学会費	450,000	559,013	△109,013	
	国際交流事業		(30,000,000)	(54,360,800)	(△24,360,800)	
		会場費	6,000,000	24,463,248	△18,463,248	
		運営費	24,000,000	29,897,552	△5,897,552	
			(109,000,000)	(172,682,600)	(△63,682,600)	
		会場運営費	64,000,000	140,758,813	△76,758,813	
		集会準備運営費	45,000,000	31,923,787	13,076,213	
			(2,000,000)	(1,500,000)	(500,000)	
		学術研究助成	2,000,000	1,500,000	500,000	
		坂口賞	(100,000)	(102,900)	(△2,900)	
		坂口賞	100,000	102,900	△2,900	
	名簿積立金		(2,000,000)	(2,000,000)	(0)	
		名簿積立金	2,000,000	2,000,000	0	
			[0]	[50,000,000]	[△50,000,000]	
		学術調査研究積立預金	0	20,000,000	△20,000,000	
		国際情報交流基金預金	0	10,000,000	△10,000,000	
		50周年事業積立預金	0	20,000,000	△20,000,000	
			[0]	[54,133]	[△54,133]	
		繰入金支出				
		退職給与引当預金利息繰入額	0	47,752	△47,752	

科 目		予算額	決算額	差異	摘要
予 備 費	坂口賞積立預金利息繰入額	0	3,572	△3,572	
	学会賞積立預金利息繰入額	0	2,809	△2,809	
		[2,385,000]	[0]	[2,385,000]	
	予 備 費	2,385,000	0	2,385,000	
支出合計額 (C)		362,375,000	489,533,550	△127,158,550	
当期収支差額 (A)―(C)		△8,000,000	△1,596,050	△6,403,950	
次期繰越収支差額 (B)―(C)		104,067,511	110,471,461	△6,403,950	

Ⅵ. 正味財産増減計算書 (一般会計)

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 15 年 3 月 31 日

(単位:円)

1) 増加の部			決算額		摘 要
勘 定 科 目					
資 産 増 加 額	当 期 収 支 差 額		(52,158,083)		
	退職給与引当預金増加額		△1,596,050		
	坂口賞積立預金増加額		1,747,752		
	学会賞積立預金増加額		3,572		
	名簿積立預金増加額		2,809		
	学術調査研究積立預金増加額		2,000,000		
	学術調査研究積立預金増加額		20,000,000		
	国際情報交流基金預金増加額		10,000,000		
	50周年事業積立預金増加		20,000,000		
	50周年事業積立預金増加		(12,000,000)		
負 債 減 少 額	学術調査研究引当金取崩額		2,000,000		
	国際情報交流基金引当金取崩額		10,000,000		
	国際情報交流基金引当金取崩額		10,000,000		
増 加 額 合 計			64,158,083		
2) 減少の部			決算額		摘 要
勘 定 科 目					
資 産 減 少 額	学術調査研究積立預金取崩額		(12,530,545)		
	国際情報交流基金積立預金取崩額		2,000,000		
	国際情報交流基金積立預金取崩額		10,000,000		
	固定資産減価償却額		110,545		
	長期前払費用償却額		420,000		
	退職給与引当預金繰入額		(53,754,133)		
	坂口賞引当金繰入額		1,747,752		
	学会賞引当金繰入額		3,572		
	名簿引当金繰入額		2,809		
	学術調査研究引当金繰入額		2,000,000		
負 債 増 加 額	学術調査研究引当金繰入額		20,000,000		
	国際情報交流基金引当金繰入額		10,000,000		
	50周年事業引当金繰入額		10,000,000		
	50周年事業引当金繰入額		20,000,000		
減 少 額 合 計			66,284,678		
当 期 正 味 財 産 増 加 額			△2,126,595		
前 期 繰 越 正 味 財 産 額			168,265,751		
期 末 正 味 財 産 合 計 額			166,139,156		

会 報

Ⅶ. 収 支 計 算 書 (特別会計)

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 15 年 3 月 31 日

1. 収支計算の部

(単位：円)

科 目			予算額	決算額	差異	摘要
(収 入 の 部)						
認定事業収入			(12,000,000)	(17,170,000)	(△5,170,000)	
	専 門 医 認 定 審 査 料		1,000,000	2,290,000	△1,290,000	
	認 定 料		2,000,000	3,400,000	△1,400,000	
	専 門 医 更 新 審 査 料		7,000,000	7,080,000	△80,000	
	受 験 料		2,000,000	4,400,000	△2,400,000	
当 期 収 入 合 計 (A)			12,000,000	17,170,000	△5,170,000	
前 期 繰 越 収 支 差 額			22,280,655	22,280,655	0	
収 入 合 計 (B)			34,280,655	39,450,655	△5,170,000	
(支 出 の 部)						
認定事業費			[15,000,000]	[14,812,820]	[187,180]	
	旅 費 交 通 費		5,000,000	5,194,102	△194,102	
	人 件 費		3,000,000	3,000,000	0	
	会 議 費		1,000,000	1,160,762	△160,762	
	会 場 費		1,200,000	1,816,500	△616,500	
	通 信 費		300,000	487,246	△187,246	
	消 耗 品 費		100,000	1,114	98,886	
	印 刷 製 本 費		1,000,000	1,870,166	△870,166	
	支 部 助 成 金		2,100,000	1,170,000	930,000	
	雑 費		50,000	112,930	△62,930	
	予 備 費		1,250,000	0	1,250,000	
支出合計額(C)			15,000,000	14,812,820	187,180	
当期収支差額(A) - (C)			△3,000,000	2,357,180	△5,357,180	
次期繰越収支差額(B) - (C)			19,280,655	24,637,835	△5,357,180	

Ⅷ. 正味財産増減計算書 (特別会計)

自 平成 14 年 4 月 1 日

至 平成 15 年 3 月 31 日

(単位：円)

1)増加の部				決算額		摘 要
勘 定 科 目				(2,357,180) 2,357,180 (0)		
資 産 増 加 額	当 期 収 支 差 額					
負 債 減 少 額						
増 加 額 合 計				2,357,180		
2)減少の部				決算額		摘 要
勘 定 科 目				(0) (0)		
資 産 減 少 額						
負 債 増 加 額						
減 少 額 合 計				0		
当 期 正 味 財 産 増 加 額				2,357,180		
前 期 繰 越 正 味 財 産 額				22,280,655		
期 末 正 味 財 産 合 計 額				24,637,835		

計算書類に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 固定資産の減価償却について

建物付属設備及び器具備品…定率法による減価償却を実施している。

(2) 資金の範囲について

資金の範囲には、現金預金、未収入金、前払費用・前受金及び立替金・預り金を含めることにしている。なお、当期末残高は4.に記載するとおりである。

2. 基本財産の増減及びその残高は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
定 期 預 金	50,000,000	0	0	50,000,000

3. 次期繰越収支差額の内容は、次のとおりである。

科 目	前期末残高	当期末残高
現 金 預 金	221,484,509	236,421,270
未 収 入 金	17,954,014	18,188,877
立 替 金	279,265	29,120
前 払 費 用	6,264,028	2,037,137
合 計	245,981,816	256,676,404
前 受 金	97,602,760	109,208,000
預 り 金	316,179	212,285
未 払 金	13,523,684	3,416,423
未 払 法 人 税 等	4,572,400	8,730,400
合 計	116,015,023	121,567,108
次期繰越収支差額	129,966,793	135,109,296

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建 物 付 属 設 備	1,000,000	950,000	50,000
器 具 備 品	3,187,842	2,626,447	561,395
合 計	4,187,842	3,576,447	611,395

平成 15 年度補正 収 支 予 算 書 (一般会計)

自 平成 15 年 4 月 1 日
至 平成 16 年 3 月 31 日

1. 収 支 計 算 の 部

(単位:円)

(収 入 の 部)					
科 目			補 正 予 算 額	当 初 予 算 額	増 減
基本財産運用収入			(175,000)	(175,000)	(0)
	基本財産運用収入		175,000	175,000	0
会 費 収 入			(135,400,000)	(135,400,000)	(0)
	正会員会費収入		128,000,000	128,000,000	0
	賛助会員会費収入		7,400,000	7,400,000	0
助 成 金 収 入			(200,000)	(200,000)	(0)
	助 成 金 収 入		200,000	200,000	0
事 業 収 入			(68,000,000)	(66,500,000)	(1,500,000)
	出版事業収入		68,000,000	66,500,000	1,500,000
「進歩」開催収入			(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
	「進歩」開催収入		30,000,000	30,000,000	0
「年次学術集会」開催収入			(139,000,000)	(139,000,000)	(0)
	「年次学術集会」開催収入		139,000,000	139,000,000	0
寄 附 金 収 入			(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
	寄 附 金 収 入		2,000,000	2,000,000	0
雑 収 入			(3,100,000)	(3,100,000)	(0)
	受 取 利 息		1,500,000	1,500,000	0
	会 誌 投 稿 料		1,500,000	1,500,000	0
	雑 収 入		100,000	100,000	0
特定預金取崩収入			(32,500,000)	(16,000,000)	(16,500,000)
	名簿積立預金取崩収入		14,000,000	14,000,000	0
	学術調査研究積立預金取崩収入		10,000,000	2,000,000	8,000,000
	国際情報交流基金積立預金取崩収入		5,000,000	0	5,000,000
	OA機器積立預金取崩収入		3,500,000	0	3,500,000
当期収入合計(A)			410,375,000	392,375,000	18,000,000
前期繰越収支差額			110,471,461	110,471,461	0
収入合計(B)			520,846,461	502,846,461	18,000,000
(支 出 の 部)					
科 目			補 正 予 算 額	当 初 予 算 額	増 減
管 理 費			[67,800,000]	[63,300,000]	[4,500,000]
	給 料 手 当		25,000,000	25,000,000	0
	福 利 厚 生 費		4,000,000	3,500,000	500,000
	会 議 費		1,500,000	1,500,000	0
	旅 費 交 通 費		3,000,000	3,000,000	0
	通 信 運 搬 費		4,000,000	4,000,000	0
	事 務 費		7,000,000	3,000,000	4,000,000
	印 刷 製 本 費		2,500,000	2,500,000	0
	支 払 手 数 料		5,500,000	5,500,000	0
	光 熱 水 料 費		800,000	800,000	0
	賃 借 料		12,000,000	12,000,000	0

会 報

事業費	退職給与引当金繰入額		2,000,000	2,000,000	0
	雑 費		500,000	500,000	0
			[353,940,000]	[335,440,000]	[13,500,000]
	調 査 研 究 費		(20,500,000)	(15,000,000)	(5,500,000)
		旅 費 交 通 費	6,000,000	6,000,000	0
		通 信 運 搬 費	1,200,000	1,200,000	0
		事 務 費	600,000	600,000	0
		調 査 費	10,000,000	4,500,000	5,500,000
		印 刷 製 本 費	700,000	700,000	0
		会 議 費	2,000,000	2,000,000	0
	インターネット委員会		(12,940,000)	(7,940,000)	(5,000,000)
		通 信 費	4,440,000	4,440,000	0
		印 刷 製 本 費	1,000,000	1,000,000	0
		備 品 費	1,500,000	1,500,000	0
		会 議 費	500,000	500,000	0
		IT関係整備費	5,000,000	0	5,000,000
		旅 費 交 通 費	500,000	500,000	0
	選挙管理委員会		(900,000)	(900,000)	(0)
		旅 費 交 通 費	500,000	500,000	0
		会 議 費	300,000	300,000	0
		印 刷 製 本 費	50,000	50,000	0
		事 務 費	50,000	50,000	0
	その他委員会		(3,200,000)	(3,200,000)	(0)
		会 議 費	500,000	500,000	0
		旅 費 交 通 費	1,000,000	1,000,000	0
		通 信 費	900,000	900,000	0
		雑 費	800,000	800,000	0
	学術・地方集会開催事業		(15,000,000)	(15,000,000)	(0)
		糖尿病学の進歩	2,000,000	2,000,000	0
		年次学術集会	4,000,000	4,000,000	0
		支 部 補 助 費	9,000,000	9,000,000	0
	出 版 事 業		(102,600,000)	(102,600,000)	(0)
		旅 費 交 通 費	6,000,000	6,000,000	0
		通 信 運 搬 費	21,000,000	21,000,000	0
		会 議 費	2,500,000	2,500,000	0
		事 務 費	100,000	100,000	0
		印 刷 製 本 費	73,000,000	73,000,000	0
	国際交流事業		(9,200,000)	(3,700,000)	(5,500,000)
		旅 費 交 通 費	4,500,000	3,000,000	1,500,000
		国 際 学 会 費	700,000	700,000	0
		事 務 費	500,000	0	500,000
		会 議 費	3,000,000	0	3,000,000
		通 信 運 搬 費	500,000	0	500,000
	「進歩」開催費用		(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
		会 場 費	6,000,000	6,000,000	0
		運 営 費	24,000,000	24,000,000	0
	「年次学術集会」開催費用		(139,000,000)	(139,000,000)	(0)
		会 場 運 営 費	93,000,000	93,000,000	0
		集会準備運営費	46,000,000	46,000,000	0

	学術研究助成		(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
	坂口賞	学術研究助成	2,000,000	2,000,000	0
	名簿作製費	坂口賞	(100,000)	(100,000)	(0)
		坂口賞	100,000	100,000	0
		発送費	(16,500,000)	(14,000,000)	(2,500,000)
		作製費	6,500,000	5,000,000	1,500,000
	名簿積立金支出	作製費	10,000,000	9,000,000	1,000,000
		名簿積立金支出	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
		名簿積立金支出	2,000,000	2,000,000	0
予備費			[2,635,000]	[2,635,000]	[0]
	予備費		2,635,000	2,635,000	0
支出合計額(C)			424,375,000	401,375,000	23,000,000
当期収支差額(A) - (C)			△14,000,000	△9,000,000	△5,000,000
次期繰越収支差額(B) - (C)			96,471,461	101,471,461	△5,000,000

平成 15 年度補正 収 支 予 算 書 (特別会計)

自 平成 15 年 4 月 1 日

至 平成 16 年 3 月 31 日

I 収支計算の部

(単位:円)

(収 入 の 部)					
科 目			補正予算額	当初予算額	増 減
認定事業収入			(12,500,000)	(12,500,000)	(0)
	専門医認定審査料		1,500,000	1,500,000	0
	認定料		3,000,000	3,000,000	0
	専門医更新審査料		5,000,000	5,000,000	0
	受験料		3,000,000	3,000,000	0
当期収入合計(A)			12,500,000	12,500,000	0
前期繰越収支差額			24,637,835	24,637,835	0
収入合計(B)			37,137,835	37,137,835	0
(支 出 の 部)					
科 目			補正予算額	当初予算額	増 減
認定事業費			[16,000,000]	[15,000,000]	[1,000,000]
	旅費交通費		5,000,000	5,000,000	0
	人件費		3,000,000	3,000,000	0
	会議費		1,000,000	1,000,000	0
	会場費		1,200,000	1,200,000	0
	通信費		300,000	300,000	0
	消耗品費		100,000	100,000	0
	印刷製本費		1,000,000	1,000,000	0
	支部助成金		2,100,000	2,100,000	0
	雑費		1,050,000	50,000	1,000,000
	予備費		1,250,000	1,250,000	0
支出合計額(C)			16,000,000	15,000,000	1,000,000
当期収支差額(A) - (C)			△3,500,000	△2,500,000	△1,000,000
次期繰越収支差額(B) - (C)			21,137,835	22,137,835	△1,000,000

社団法人 日本糖尿病学会事業計画
(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

I. 学術集会および地方会の開催

1. 第 47 回年次学術集会

会 期 平成 16 年 5 月 13 日～15 日(木・金・土)
会 場 東京国際フォーラム
会 長 岩本安彦(東京女子医科大学糖尿病センター)

- 特別講演
- 招待講演
- シンポジウム
- ワークショップ

2. 第 39 回「糖尿病学の進歩」

会 期 平成 17 年 2 月 18・19 日(金・土)
開催地 山形市
世話人 富永真琴
(山形大学臨床検査医学)

3. 地方会活動

- 1) 第 38 回日本糖尿病学会北海道地方会
- 2) 第 42 回日本糖尿病学会東北地方会
- 3) 第 42 回日本糖尿病学会関東甲信越地方会
- 4) 第 70・71 回日本糖尿病学会中部地方会
- 5) 第 41 回日本糖尿病学会近畿地方会
- 6) 第 42 回日本糖尿病学会中国・四国地方会
- 7) 第 42 回日本糖尿病学会九州地方会

4. 分科会活動

1) 第 19 回日本糖尿病合併症学会
会 期 平成 16 年 10 月 2・3 日(土・日)
会 場 パシフィコ横浜(横浜市)
会 長 堺 秀人(東海大学腎代謝内科)

II. 出版事業

- 1) 会誌「糖尿病」の発行
- 2) 糖尿病患者むけ指導書の発行
 - ①糖尿病食事療法のための食品交換表
 - ②糖尿病治療のてびき
 - ③糖尿病性腎症の食品交換表
 - ④糖尿病食事療法のための食品交換表 CD-ROM 付
 - ⑤糖尿病性腎症のための食品交換表 CD-ROM 付
- 3) 医師およびコ・メディカルむけ指導書の発行

- ①こどもの糖尿病・サマーキャンプの手引き
- ②「食品交換表」を用いる糖尿病食事療法指導のてびき
- ③糖尿病療養指導の手びき
- ④糖尿病治療ガイド
- ⑤糖尿病学用語集
- ⑥糖尿病遺伝子診断ガイド
- ⑦専門医取得のための研修ガイドブック
- ⑧小児・思春期糖尿病管理の手びき

III. 糖尿病に関する調査研究

1. 糖尿病関連検査の標準化に関する検討
2. IDDM 複数発症および IDDM, NIDDM 共存家系調査研究
3. 遺伝子異常による糖尿病に関する調査研究
4. 糖尿病の一次予防に関する調査研究
5. 糖尿病の死因に関する調査研究
6. 劇症及び緩徐進行 1 型糖尿病に関する調査研究
7. 食事療法に関する調査研究
8. 糖尿病性腎症データベースの構築調査研究
9. アジア人糖尿病調査研究
10. 糖尿病性神経障害の実態調査と国際比較調査研究

IV. 国際交流

- 1) IDF-WPR Council Meeting への出席

V. 普及・啓発・後援

- 1) 第 40 回全国糖尿病週間の共催
- 2) 社団法人日本糖尿病協会への協力

VI. 功労賞および研究奨励・研究業績の顕彰

- 1) 坂口賞の授与
- 2) ハーゲドーン賞の授与
- 3) リリー賞の授与

VII. 特別事業

- 1) 学会専門医, 研修指導医, 認定教育施設の認定

平成 16 年度 収 支 予 算 書 (一般会計)

自 平成 16 年 4 月 1 日
至 平成 17 年 3 月 31 日

I 収支計算の部

(単位:円)

収 入 の 部					
科 目			予 算 額	前期度予算額	増 減
基本財産運用収入			(50,000)	(175,000)	(△125,000)
	基本財産運用収入		50,000	175,000	△125,000
会 費 収 入			(140,400,000)	(135,400,000)	(5,000,000)
	正会員会費収入		133,000,000	128,000,000	5,000,000
	賛助会員会費収入		7,400,000	7,400,000	0
助 成 金 収 入			(200,000)	(200,000)	(0)
	助 成 金 収 入		200,000	200,000	0
事 業 収 入			(75,000,000)	(68,000,000)	(7,000,000)
	出版事業収入		75,000,000	68,000,000	7,000,000
「進歩」開催収入			(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
	「進歩」開催収入		30,000,000	30,000,000	0
「年次学術集会」開催収入			(139,000,000)	(139,000,000)	(0)
	「年次学術集会」開催収入		139,000,000	139,000,000	0
寄 附 金 収 入			(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
	寄 附 金 収 入		2,000,000	2,000,000	0
雑 収 入			(2,100,000)	(3,100,000)	(△1,000,000)
	受 取 利 息		500,000	1,500,000	△1,000,000
	会 誌 投 稿 料		1,500,000	1,500,000	0
	雑 収 入		100,000	100,000	0
特定預金取崩収入			(0)	(32,500,000)	(△32,500,000)
	名簿積立預金取崩収入		0	14,000,000	△14,000,000
	学術調査研究積立預金取崩収入		0	10,000,000	△10,000,000
	国際情報交流基金積立預金取崩収入		0	5,000,000	△5,000,000
	OA機器積立預金取崩収入		0	3,500,000	△3,500,000
当期収入合計(A)			388,750,000	410,375,000	△21,625,000
前期繰越収支差額			96,471,461	110,471,461	△14,000,000
収入合計(B)			485,221,461	520,846,461	△35,625,000
支 出 の 部					
科 目			予 算 額	前期度予算額	増 減
管 理 費			[63,100,000]	[67,800,000]	[△4,700,000]
	給 料 手 当		23,000,000	25,000,000	△2,000,000
	福 利 厚 生 費		4,000,000	4,000,000	0
	会 議 費		1,500,000	1,500,000	0
	旅 費 交 通 費		3,500,000	3,000,000	500,000
	通 信 運 搬 費		6,000,000	4,000,000	2,000,000
	事 務 費		3,000,000	7,000,000	△4,000,000
	印 刷 製 本 費		2,500,000	2,500,000	0
	支 払 手 数 料		5,500,000	5,500,000	0
	光 熱 水 料 費		600,000	800,000	△200,000
	賃 借 料		11,000,000	12,000,000	△1,000,000

会 報

事業費	退職給与引当金繰入額		2,000,000	2,000,000	0
	雑費		500,000	500,000	0
事業費			[328,700,000]	[353,940,000]	[△25,240,000]
	調査研究費		(17,500,000)	(20,500,000)	(△3,000,000)
事業費		旅費交通費	4,000,000	6,000,000	△2,000,000
		通信運搬費	1,200,000	1,200,000	0
事業費		事務費	200,000	600,000	△400,000
		調査費	10,000,000	10,000,000	0
事業費		印刷製本費	100,000	700,000	△600,000
		会議費	2,000,000	2,000,000	0
事業費	インターネット委員会		(2,000,000)	(12,940,000)	(△10,940,000)
		通信費	600,000	4,440,000	△3,840,000
事業費		印刷製本費	100,000	1,000,000	△900,000
		備品費	500,000	1,500,000	△1,000,000
事業費		会議費	300,000	500,000	△200,000
		IT関係整備費	0	5,000,000	△5,000,000
事業費		旅費交通費	500,000	500,000	0
	選挙管理委員会		(900,000)	(900,000)	(0)
事業費		旅費交通費	500,000	500,000	0
		会議費	300,000	300,000	0
事業費		印刷製本費	50,000	50,000	0
		事務費	50,000	50,000	0
事業費	その他委員会		(4,200,000)	(3,200,000)	(1,000,000)
		会議費	1,500,000	500,000	1,000,000
事業費		旅費交通費	2,000,000	1,000,000	1,000,000
		通信費	200,000	900,000	△700,000
事業費		雑費	500,000	800,000	△300,000
	学術・地方集会		(16,500,000)	(15,000,000)	(1,500,000)
事業費	開催事業	糖尿病学の進歩	2,000,000	2,000,000	0
		年次学術集会	4,000,000	4,000,000	0
事業費		支部補助費	10,500,000	9,000,000	1,500,000
	出版事業		(108,000,000)	(102,600,000)	(5,400,000)
事業費		旅費交通費	7,000,000	6,000,000	1,000,000
		通信運搬費	28,000,000	21,000,000	7,000,000
事業費		会議費	2,500,000	2,500,000	0
		事務費	500,000	100,000	400,000
事業費		印刷製本費	70,000,000	73,000,000	△3,000,000
	国際交流事業		(6,500,000)	(9,200,000)	(△2,700,000)
事業費		旅費交通費	3,000,000	4,500,000	△1,500,000
		国際学会費	700,000	700,000	0
事業費		事務費	500,000	500,000	0
		会議費	2,000,000	3,000,000	△1,000,000
事業費		通信運搬費	300,000	500,000	△200,000
	「進歩」開催費用		(30,000,000)	(30,000,000)	(0)
事業費		会場費	6,000,000	6,000,000	0
		運営費	24,000,000	24,000,000	0
事業費	「年次学術集会」開催費用		(139,000,000)	(139,000,000)	(0)
		会場運営費	93,000,000	93,000,000	0
事業費		集会準備運営費	46,000,000	46,000,000	0

予 備 費	学 術 研 究 助 成	学 術 研 究 助 成	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
			2,000,000	2,000,000	0
	坂 口 賞	坂 口 賞	(100,000)	(100,000)	(0)
			100,000	100,000	0
	名 簿 作 製 費		(0)	(16,500,000)	(△16,500,000)
		発 送 費	0	6,500,000	△6,500,000
		作 製 費	0	10,000,000	△10,000,000
	名簿積立金支出	名簿積立金支出	(2,000,000)	(2,000,000)	(0)
予 備 費			2,000,000	2,000,000	0
	予 備 費		[2,950,000]	[2,635,000]	[315,000]
			2,950,000	2,635,000	315,000
支出合計額(C)			394,750,000	424,375,000	△29,625,000
当期収支差額(A)―(C)			△6,000,000	△14,000,000	8,000,000
次期繰越収支差額(B)―(C)			90,471,461	96,471,461	△6,000,000

会 報

平成 16 年度 収 支 予 算 書 (特別会計)

自 平成 16 年 4 月 1 日
至 平成 17 年 3 月 31 日

I 収支計算の部

(単位：円)

収 入 の 部					
科 目			予 算 額	前期度予算額	増 減
認定事業収入			(21,500,000)	(12,500,000)	(9,000,000)
	専門医認定審査料		1,500,000	1,500,000	0
	認 定 料		3,000,000	3,000,000	0
	専門医更新審査料		14,000,000	5,000,000	9,000,000
	受 験 料		3,000,000	3,000,000	0
当期収入合計(A)			21,500,000	12,500,000	9,000,000
前期繰越収支差額			21,137,835	24,637,835	△3,500,000
収入合計(B)			42,637,835	37,137,835	5,500,000
支 出 の 部					
科 目			予 算 額	前期度予算額	増 減
認定事業費			[16,000,000]	[16,000,000]	[0]
	旅 費 交 通 費		5,000,000	5,000,000	0
	人 件 費		3,000,000	3,000,000	0
	会 議 費		1,000,000	1,000,000	0
	会 場 費		1,200,000	1,200,000	0
	通 信 費		300,000	300,000	0
	消 耗 品 費		100,000	100,000	0
	印 刷 製 本 費		1,000,000	1,000,000	0
	支 部 助 成 金		2,100,000	2,100,000	0
	雑 費		1,050,000	1,050,000	0
	予 備 費		1,250,000	1,250,000	0
支出合計額(C)			16,000,000	16,000,000	0
当期収支差額(A)―(C)			5,500,000	△3,500,000	9,000,000
次期繰越収支差額(B)―(C)			26,637,835	21,137,835	5,500,000